

第 30 回 CO2 環境対策技術研究会

日時：2017 年 11 月 24 日（金）18：00～19：30

場所：中央大学後楽園校舎 6425 教室

講演：自動車の CO2 排出量削減に関する最近の動向

第 30 回研究会は、見学会なしで講演会と交流会を行った。日産自動車の追浜工場を見学する予定であったが、見学が年内は予約が一杯であること、完成検査の問題で今後の見学予定が未定のため、今回は見学会を断念した。自動車の今後の動向をお話いただくには最適の講師が見つかったことから、中央大学後楽園校舎での講演をお願いした。

講演会は、参加者申込者が多く予定は 20 名参加であったが、実績は 18 名の参加であった。交流会参加者は、講師を含めて 16 名であった。

スケジュールと内容は以下のとおりである。

1. 講演：2017 年 11 月 24 日（金）18：00～19：30
2. 交流会：19：30～21：00 春日町「風我」

1. 講演会：18：00～19：30

1) 講師：峯岸 俊行様 峯岸技術士事務所代表、元日産自動車

2) 講演

- (1) 自動車を取り巻く状況
- (2) 次世代自動車の種類
- (3) 次世代自動車に関する最近の動向
(ガソリン車・ハイブリッド車・電気自動車・燃料電池車)
- (4) 世界の動向が向かう先は、FCV か EV か？
- (5) まとめ

FCV：燃料電池車

EV：電気自動車

HV：ハイブリッド車

PHV：プラグインハイブリッド車



講演をされる峯岸講師

講演会参加者は18名であった。
熱心に聴講され、講演後の質疑
応答も活発であった。



講演会の参加者の皆さま

講演の概要

- (1)世界の動向は電気自動車が主流になりつつある。
- (2)現在はリチウム電池を使っているが、電池が高価なため量産に結び付いていない。
- (3)中国は国策として、安価なリチウム電池を製造して、中国国内及びヨーロッパに輸出している。この取り組みは習近平主席とメルケル首相の合意の下で進められている。
- (4)電気自動車の航続距離が課題になっている。これを解決するには自動車の底板全面にリチウム電池を配置して電池の量を増やさなければならないが、車体重量が増える上価格も高くなるという悪循環に陥る。本件は車体軽量化により解決される見込み。
- (5)日産自動車の電気自動車「リーフ」は、現在は赤字のようである。リチウム電池が高価なため販売が伸びず、結果的にNECとの共同事業に関する株式売却に至った。
- (6)トヨタ自動車のハイブリッド車「プリウス」は、電池として安価な一世代前のニッケル電池を採用している。
- (7)トヨタ自動車は水素を使う燃料電池車「ミライ」を開発している。
- (8)燃料電池車の普及には、水素スタンドの建設が必要であるがガソリンスタンド1カ所1億円に対して、現在は約5億円の建設費がかかる。
- (9)トヨタ自動車は、次世代の全固体電池の自社開発が完成するのを待っている。次世代電池ができてから電気自動車に本格参入する戦略を持っており、欧州勢とは異なる。
- (10)日本では、経済産業省が電気と水素を活用し、多様なエネルギーが成り立つ社会を目指している。これは日本のエネルギーセキュリティが脆弱なためであるが、世界では日本特有の取り組みとなっている。

3. 交流会：19：30～21：00 「風我」

- 1)参加者は、講師を含めて16名。(1名会費を払って不参加の方がおられたので、実数は15名)
- 2)会場は、他の宴会もあって、やや窮屈であった。
- 3)講師の峯岸さんが、最後までお付き合いいただいたので、良い懇親ができた。

以上

(文責：内藤 堅一)